

表2. 最初の人工妊娠中絶を受ける時の気持ち

(北村邦夫:「第5回男女の生活と意識に関する調査」、2010)

	全体	男性	女性
合計	1540	671	869
胎児に対して申し訳ない気持ち	47.7	31.0	54.8
自分を責める気持ち	14.0	17.2	12.6
人生において必要な選択である	11.4	6.9	13.3
相手に対して申し訳ない気持ち	8.8	27.6	0.7
手術への不安	4.1	1.7	5.2
相手に対する怒り	2.6	1.7	3.0
これで解放されると思った	1.6	0.0	2.2
自分の親に対して申し訳ない気持ち	1.6	0.0	2.2
多くの女性がしてるからかまわない	0.0	0.0	0.0
この中にはない	7.3	13.8	4.4
覚えていない	1.0	0.0	1.5
不明	0.0	0.0	0.0

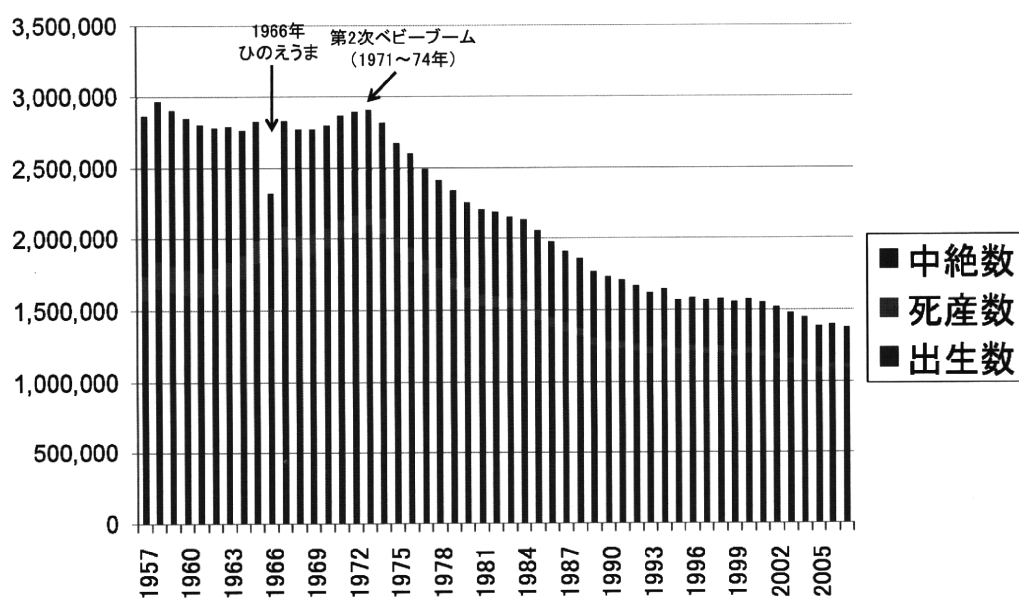


図6. 妊娠(出生+中絶+死産)数の年次推移

表3. 以前、あなたは避妊方法について、主にどこから知ったか

(北村邦夫:「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010)

	総数	男性	女性
総数	1,540	671	869
教師・学校の授業	34.9	28.3	40.0
友だち	22.3	25.6	19.8
マスコミ	17.7	19.8	16.1
意識せず、自然に身についた	16.3	16.5	16.1
親	1.4	1.8	1.0
医師、助産師などの保健医療者	1.2	0.6	1.7
インターネット	0.8	1.3	0.5
親以外の大人	0.8	0.6	0.9
きょうだい	0.2	0.1	0.2
学んだことはない	3.4	4.5	2.5
無回答	0.9	0.7	1.0

表4. あなたが現時点でもっとも適切と判断する避妊法はどれか

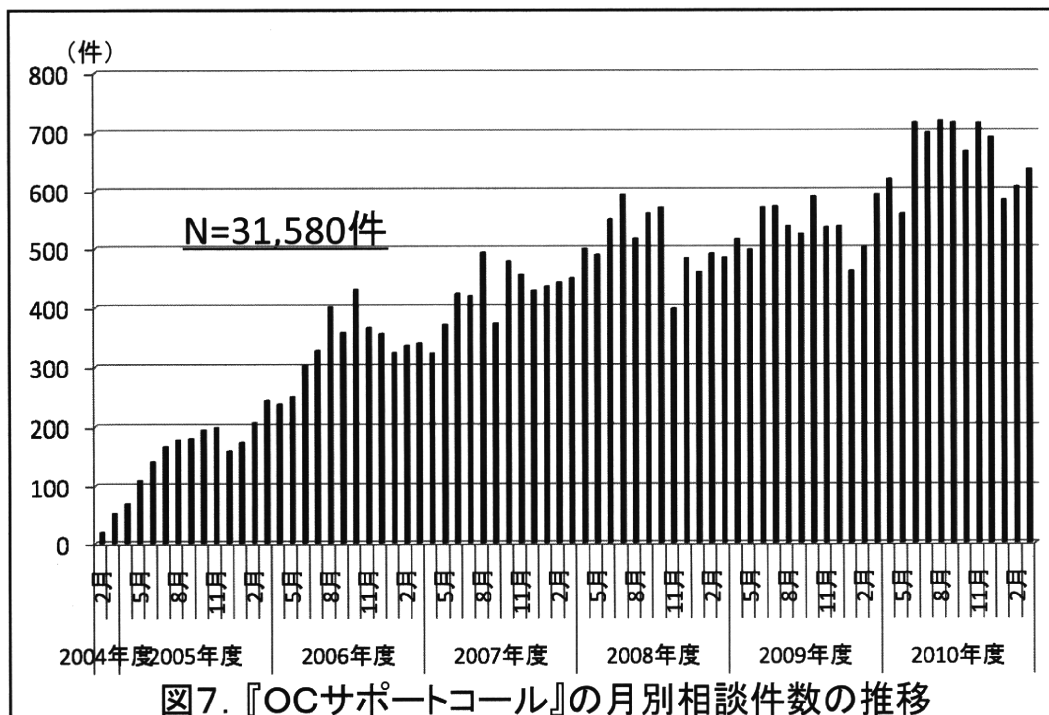
(北村邦夫:「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010)

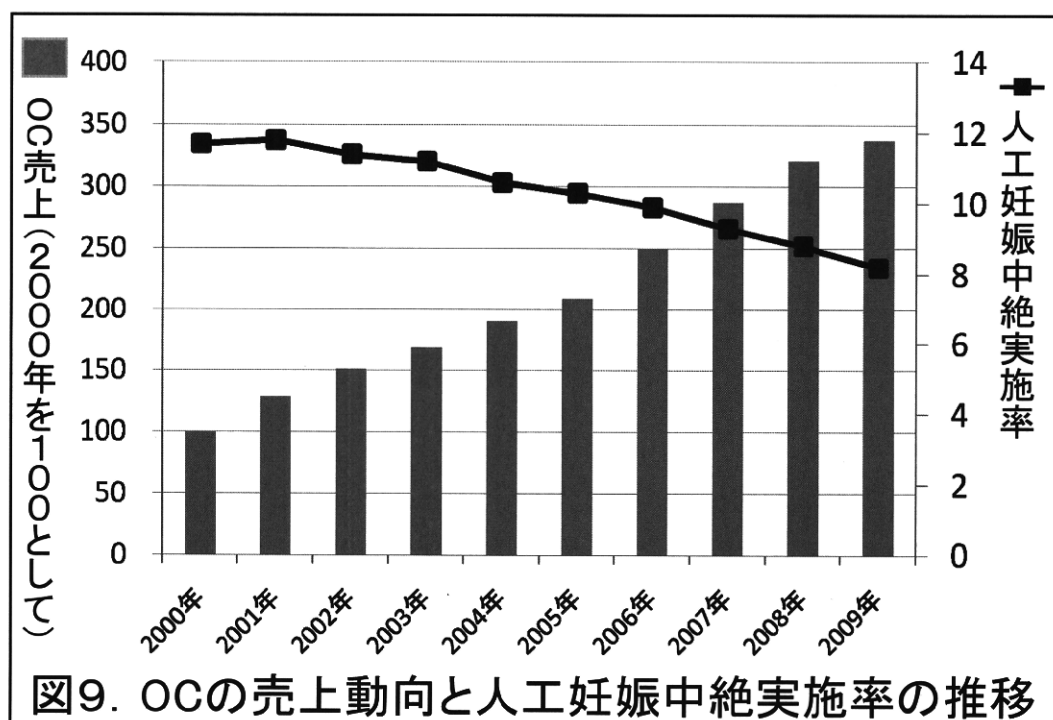
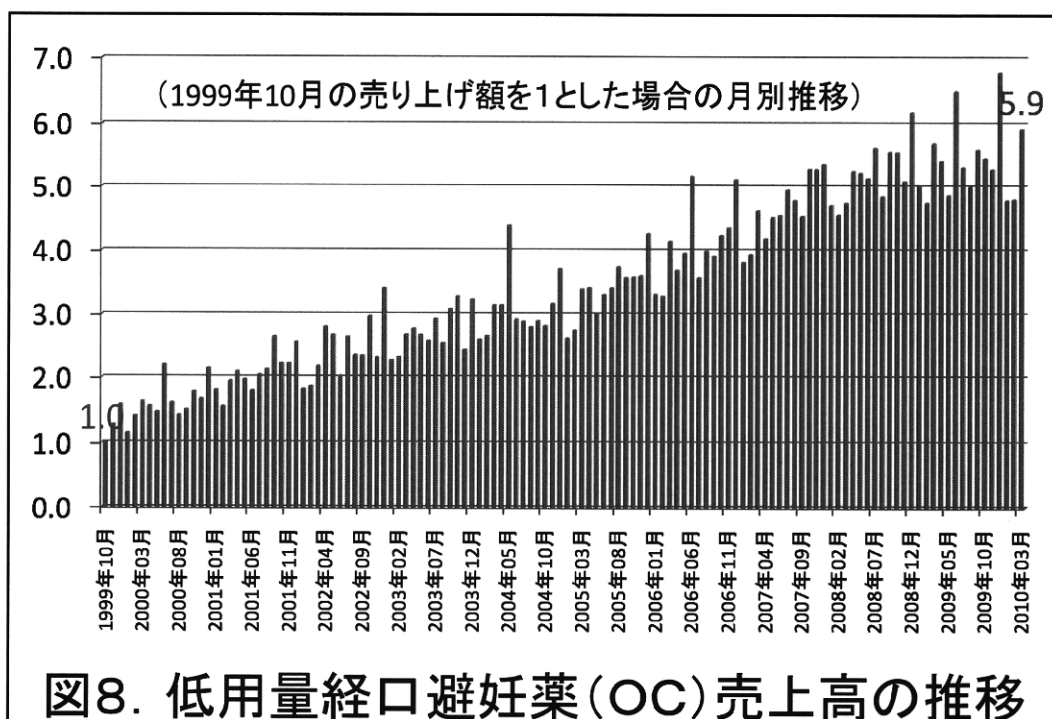
	総数	男性	女性
総数	1,540	671	869
コンドーム	87.1	90.6	84.3
経口避妊薬(ピル)	5.1	3.9	6.1
膣外射精法	1.4	2.2	0.8
基礎体温法	1.2	0.1	2.0
オギノ式避妊法	0.3	—	0.5
IUD/IUS(子宮内避妊具)	1.0	0.1	1.7
ペッサリー	0.2	0.1	0.2
フィルム状避妊薬	—	—	—
緊急避妊法	—	—	—
この中にはない	1.8	1.6	1.8
無回答	1.9	1.2	2.5

表5. この一年間、避妊した人の現在の主な避妊法

(北村邦夫:「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010)

	総数	男性	女性
総数	740	329	411
コンドーム	85.5	89.7	82.2
膣外射精法	15.9	12.5	18.7
経口避妊薬(ピル)	3.4	3.3	3.4
オギノ式避妊法	3.2	2.7	3.6
基礎体温法	1.4	0.3	2.2
不妊手術(女性)	1.2	0.6	1.7
子宮内避妊具	0.9	0.3	1.5
不妊手術(男性)	0.3	0.0	0.5
洗浄法	0.1	0.0	0.2
殺精子剤	0.1	0.0	0.2
不明	3.1	3.0	3.2





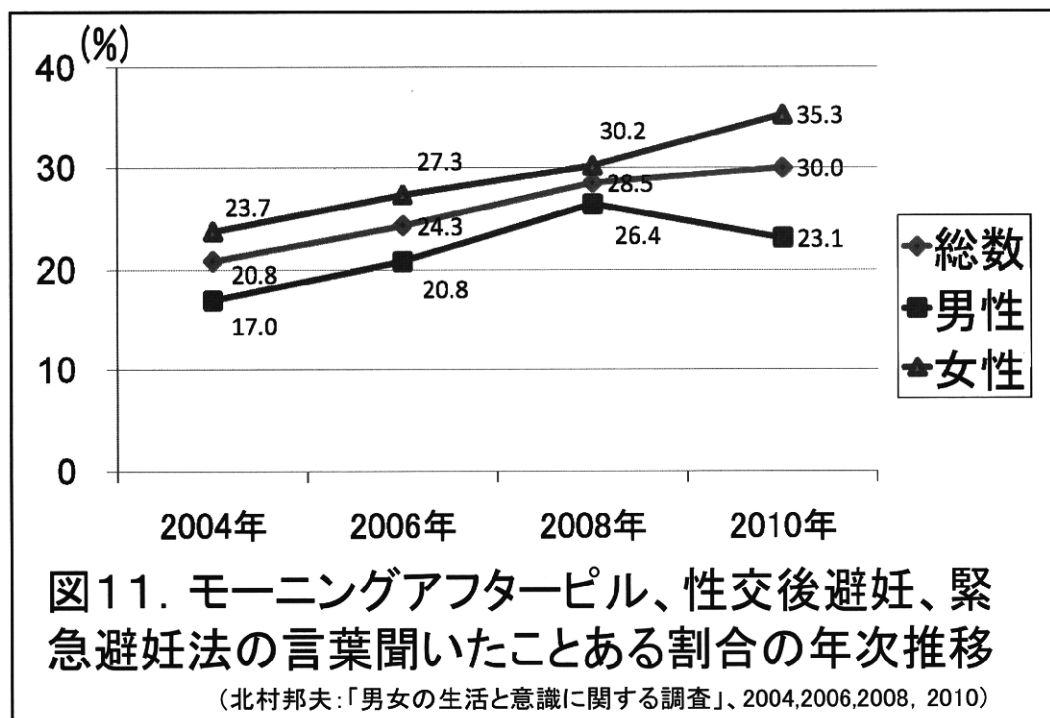
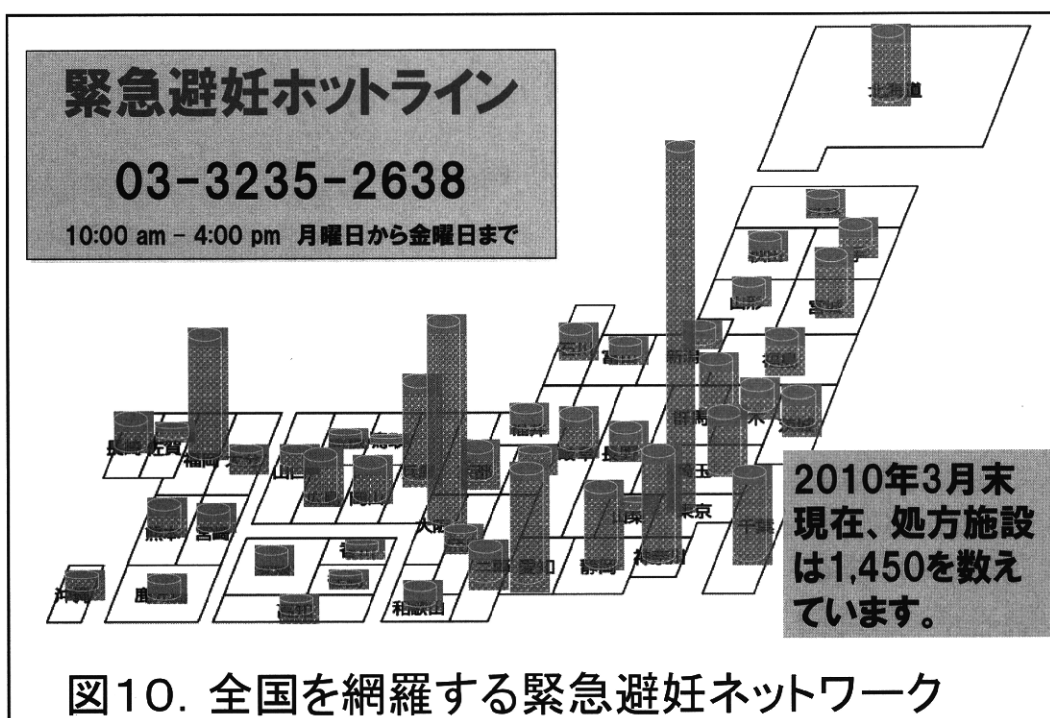


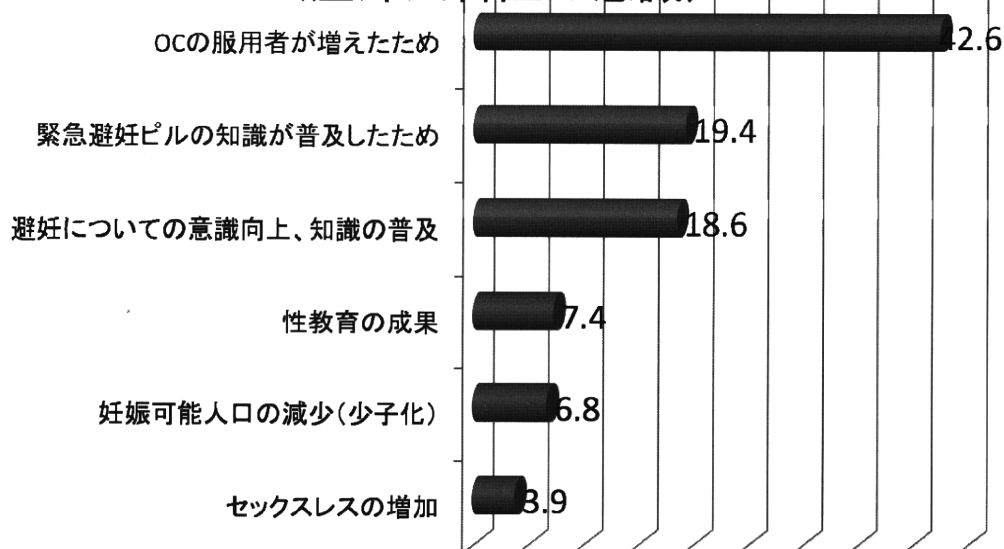
表6. 緊急避妊法を利用したことがあるか

		総数	1回	2回	3回 以上	なし	無回 答	NA	(再掲) 利用 あり
性別	総数	462	4.3	1.1	1.1	91.1	2.2	0.2	6.5
	男性	155	3.9	0.6	1.9	89.0	4.5	—	6.5
	女性	307	4.6	1.3	0.7	92.2	1.0	0.3	6.5

(北村邦夫:厚生労働科学研究「男女の生活と意識に関する調査2010」から)

15歳～49歳の女性人口を26,531,000人(平成21年10月1日現在推計人口)とすると、緊急避妊法を過去に利用した女性は延べ608,754人となっている。

図12. 人工妊娠中絶実施率の減少について
(産婦人科医の意識)



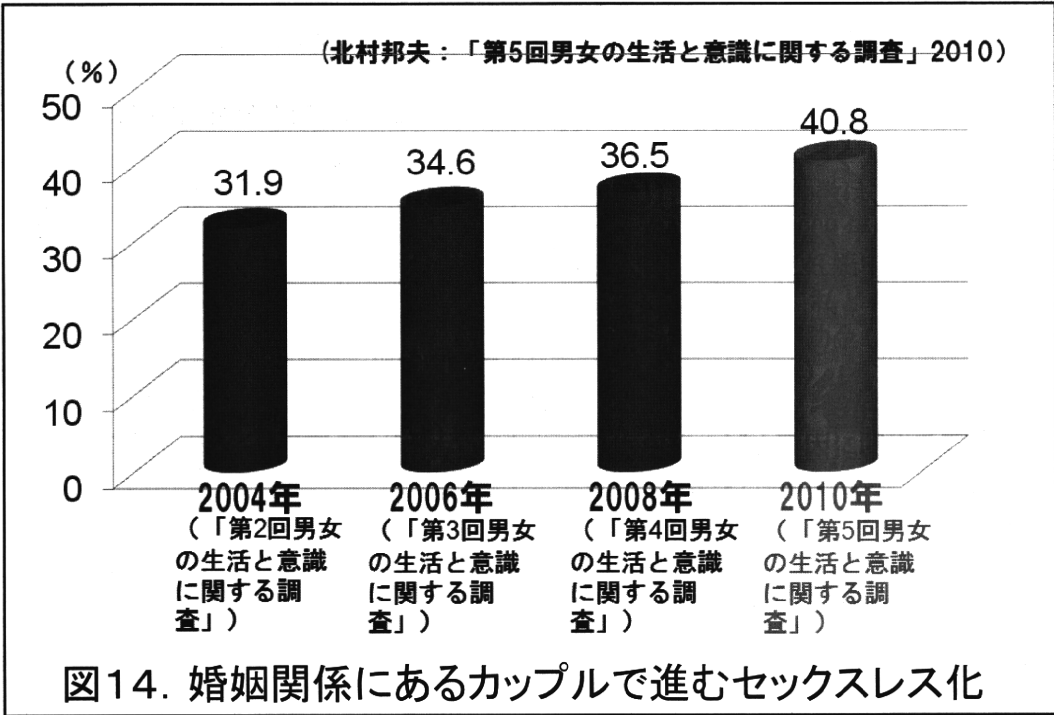
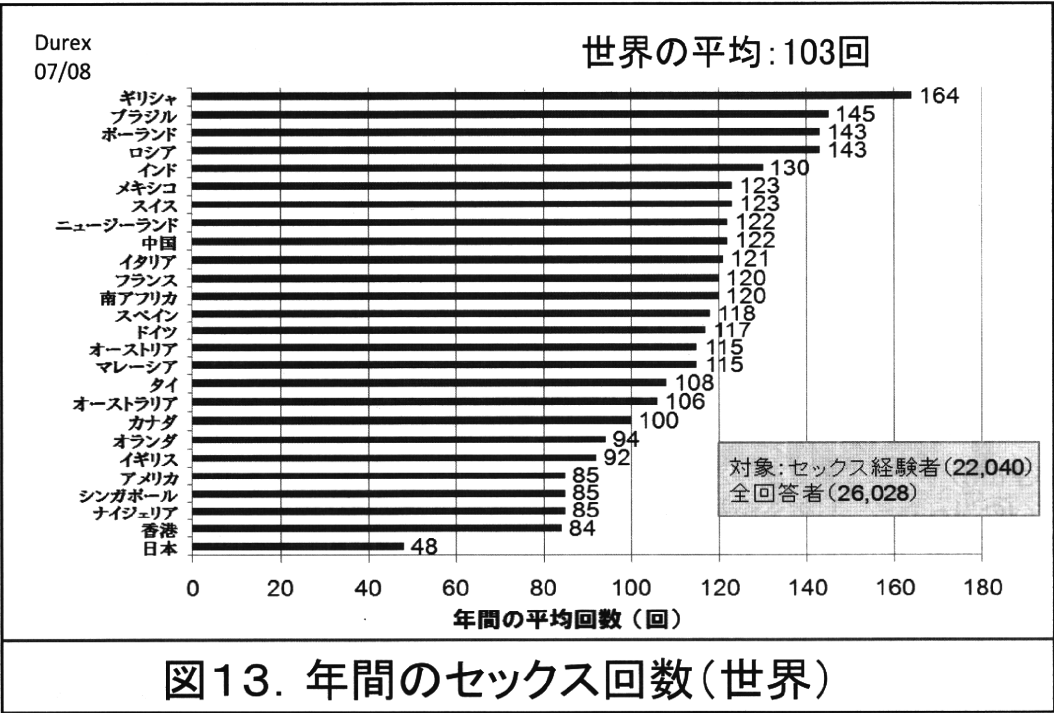


表7. 婚姻関係にある人がセックスに対して積極的になれない理由

(北村邦夫:「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010)

	総数	男性	女性
n=	330	122	208
出産後何となく	20.9	18.9	22.1
面倒くさい	20.9	10.7	26.9
仕事で疲れている	16.1	19.7	13.9
セックスより楽しいことがある	5.8	4.9	6.3
家族(肉親)のように思えるから	4.2	3.3	4.8
相手がいない	3.3	8.2	0.5
相手の一方的なセックスに不満ある	1.8	2.5	1.4
妊娠することへの不安が強い	1.8	2.5	1.4
勃起障害に対する不安がある	1.8	3.3	1.0
家が狭い	1.2	2.5	0.5
セックスに際して痛みがある	0.9	0.0	1.4
その他	19.4	22.1	17.8
無回答	1.8	1.6	1.9

表8. 婚姻関係にある人がセックスに対して積極的になれない理由

(男性)

(北村邦夫:「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010)

	総数	20歳 未満	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳
総数	122	0	1	2	19	35	33	32
仕事で疲れている	19.7	-	-	-	15.8	20.0	21.2	21.9
出産後何となく	18.9	-	-	50.0	21.1	25.7	21.2	6.3
面倒くさい	10.7	-	-	-	5.3	14.3	6.1	15.6
相手がいない	8.2	-	-	-	5.3	-	15.2	12.5
セックスより楽しいことがある	4.9	-	-	-	10.5	2.9	3.0	6.3
家族(肉親)のように思えるから	3.3	-	100.0	-	5.3	-	3.0	3.1
勃起障害に対する不安がある	3.3	-	-	-	5.3	2.9	3.0	3.1
相手の一方的なセックスに不満ある	2.5	-	-	-	-	-	6.1	3.1
家が狭い	2.5	-	-	-	-	-	-	9.4
妊娠することへの不安が強い	2.5	-	-	-	-	2.9	3.0	3.1
セックスに際して痛みがある	0.0	-	-	-	-	-	-	-
その他	22.1	-	-	50.0	31.6	31.4	15.2	12.5
無回答	1.6	-	-	-	-	-	3.0	3.1

表9. 婚姻関係にある人がセックスに対して積極的になれない理由
(女性)

(北村邦夫:「第5回男女の生活と意識に関する調査」2010)

	総数	20歳 未満	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳
総数	208	0	5	15	23	41	59	65
面倒くさい	26.9	—	40.0	6.7	13.0	24.4	27.1	36.9
出産後何となく	22.1	—	—	26.7	47.8	36.6	15.3	10.8
仕事で疲れている	13.9	—	—	0.0	8.7	9.8	18.6	18.5
セックスより楽しいことがある	6.3	—	—	13.3	—	2.4	6.8	9.2
家族(肉親)のように思えるから	4.8	—	—	6.7	—	2.4	3.4	9.2
相手の一方的なセックスに不満ある	1.4	—	—	6.7	—	2.4	—	1.5
セックスに際して痛みがある	1.4	—	—	6.7	—	2.4	1.7	—
妊娠することへの不安が強い	1.4	—	—	—	4.3	2.4	1.7	—
勃起障害に対する不安がある	1.0	—	—	—	—	—	3.4	—
相手がいない	0.5	—	—	—	—	—	—	1.5
家が狭い	0.5	—	—	0.0	—	—	1.7	—
その他	17.8	—	60.0	33.3	26.1	14.6	18.6	9.2
無回答	1.9	—	—	—	—	2.4	1.7	3.1

表10. 人工妊娠中絶を繰り返す女性の特徴

(数値は%で、順に「中絶経験なし」「中絶経験1回のみ」「反復中絶経験あり」)

1. 「中学生の頃の家庭」 楽しなかった(23.4%, 34.9%, 40.4%)
2. 「両親の離婚経験」 はい(12.7%, 14.0%, 25.5%)
3. 「自傷行為(リストカットなど)の経験」 ある(4.8%, 14.9%, 29.8%)
4. 「避妊方法について主にどこで知ったか」 学校の授業(42.0%, 34.5%, 25.0%)
5. 「低用量経口避妊薬(ピル)の認知度」 よく知っている(10.7%, 23.0%, 31.3%)
6. 「初めての異性とのセックス」 重大だと感じていた(75.8%, 69.8%, 54.2%)
7. 「初めてセックスした相手との知り合い方」 町で声をかけられたりして知り合った(2.4%, 6.9%, 16.7%)
8. 「初めてのセックスの時に避妊したか」 避妊しなかった(18.7%, 23.0%, 37.5%)
9. 「人工妊娠中絶についての考え方」 認める(70.2%, 80.4%, 85.4%)
10. 「結婚したい気持ちがあるか」 いいえ(22.4%, 30.4%, 77.8%)
11. 「子どもの有無」 いる(52.5%, 87.2%, 89.6%)
12. 「学歴」 中学校卒業(7.7%, 8.2%, 18.8%)
13. 「喫煙習慣」 習慣的に吸っている(13.0%, 26.7%, 54.2%)
14. 「一週間の飲酒量」 一合以上(18.8%, 25.9%, 41.7%)
15. 「婚姻関係」 ある(52.9%, 72.4%, 81.3%)

表11. 性に関する以下の事柄について、15歳までに知るべきと思う割合(%)

(北村邦夫:「男女の生活と意識に関する調査」2002、2004、2006、2008、2010)

	2010年	2008年	2006年	2004年	2002年
男女の心と身体の違い	92.6	93.7	92.7	88.7	90.3
二次性徴、月経、射精などの仕組み	93.0	95.0	94.1	89.6	90.8
受精、妊娠、出産、誕生のしくみ	89.8	91.9	90.6	84.9	86.7
セックス(性交渉)	73.4	74.9	73.2	65.7	0.0
避妊法	76.3	77.2	76.5	70.1	75.0
人工妊娠中絶	65.1	68.0	66.9	61.4	66.8
エイズとその予防	77.1	77.0	78.1	71.8	75.1
エイズ以外の性感染症とその予防	74.2	74.7	73.5	68.8	72.3
コンドームの使い方	67.2	68.5	68.7	61.8	62.8
多様な性のあり方	59.4	57.5	55.7	50.8	50.6
性的被害の対処法	66.2	67.7	66.1	60.4	61.0
男女間の平等や助け合い	80.4	80.0	81.5	75.4	73.1
結婚	59.5	58.6	57.5	46.6	49.9
離婚	56.1	53.7	52.7	41.7	45.7
人と人とのコミュニケーション	86.4	85.9	84.7	80.2	76.0
性に関する倫理や道徳	76.8	78.1	76.2	72.1	70.9

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

「望まない妊娠防止対策に関する総合的研究」

「第 5 回男女の生活と意識に関する調査」

- 性行動と避妊に関する意識と実態について -

報告書

平成 23 年 3 月 31 日

リプロ・ヘルス情報センター

菅 睦 雄

(社)日本家族計画協会

北村 邦夫、杉村 由香理

目次

「第5回男女の生活と意識に関する調査」報告書	31
はじめに	34
I 章. 調査対象の背景	35
1. 男女間の年齢分布	35
2. 兄弟姉妹	36
3. 中学生時代の家族形態	37
4. 職業	38
5. 婚姻関係	40
6. 子どもの数	42
7. 調査対象者の最終学歴	43
8. 未婚者における結婚への意識	44
9. 子どもを持つことに対する意識	46
10. 喫煙並びに飲酒の嗜好習慣と程度	48
11. 調査対象の背景の小括	50
II 章. 性に関する意識について	54
1. 中学生が性交渉をすることに対する考え	54
2. セックス（性交渉）に対する関心度について	56
3. 異性との関わりについて	58
4. 避妊方法周知媒体	62
5. 現時点で適切と判断する避妊方法	65
6. コンドームの利用を増やす方策	66
7. 経口避妊薬の周知度	68
8. 緊急避妊法の周知度	70
9. 緊急避妊法の周知者の利用度	72
10. 性に関する意識についての小括	74
III 章. 性行動について	77
1. 性交経験について	77
2. 過去1年間の性交渉のパートナーの数	78
3. 決まった交際相手（配偶者を含む）以外でとセックスの関係	81
4. 最近1か月間の性交頻度（月1回もない者をセックスレスと定義）	84
4-1. セックス（性交渉）に対して積極的になれない理由	87
5. 性行動の小括	89
第IV章：初めてのセックス（性交渉）について	91
1. 初交年齢について	91

2. 初めてのセックス（性交渉）に対する捉え方	92
3. 初めてのセックス（性交渉）をした相手との出会い	96
4. 初めてのセックス（性交渉）をした際のきっかけとなった理由	99
5. 初めてのセックス（性交渉）をした後の気持ち	101
6. 出会いから初交時までの交際期間	104
7. 初交時の避妊について	105
8. 初交時の避妊法について	106
9. 初交時に避妊を行わなかった理由	107
10. 初めてのセックス（性交渉）についての小括	110
V章. 現在の避妊の状況について	112
1. 避妊や方法について相手と相談して決めていますか	112
2. この1年間における避妊の状況	113
3. 現在行っている主な避妊法（2択選択）	119
4. 現在の避妊の状況についての小括	121
第VI章：コンドームについて	122
1. コンドームの使用状況	122
2. 決まった交際相手以外の相手とのコンドーム使用状況	123
3. コンドームを使用する理由	126
4. コンドームについての小括	129
第VII章：低用量ピルについて	130
1. 低用量ピルの使用意向	130
2. 低用量ピルを使う最も大きな理由	132
3. 低用量ピルを使わない最も大きな理由	135
4. 低用量ピルについての小括	137
第VIII章：子宮がん予防ワクチンについて	138
1. 子宮頸がん予防ワクチンについて	138
2. 子宮頸がん予防ワクチン接種の意欲度	141
3. 子宮がん予防ワクチンについての小括	143
第IX章：人工妊娠中絶について	144
1. 人工妊娠中絶の是非について	144
2. 人工妊娠中絶の既往	145
3. 最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由	149
4. 最初の人工妊娠中絶手術を受ける時の気持ち	151
5. 人工妊娠中絶についての小括	153
終章：まとめ	153

「第5回男女の生活と意識に関する調査」報告書

- 性行動と避妊に関する意識と実態について -

はじめに

平成14年度より厚生労働省の厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業の「全国の実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究」の一環として「男女の生活と意識に関するアンケート調査」を行ってきた。今回の平成22年の調査は5回目となるが、各年次調査内容については少々異なっているものの基本的な項目は殆ど同じであり、本調査報告書は

過去の調査と比較検討することも可能と考えている。

本調査の目的は、20歳未満の人工妊娠中絶と性感染症が過去に例をみないスピードで増加していたのが収まりつつある状況を示してきている。しかしながら、本調査では高齢少子社会を迎える中においてセックスレス夫婦が増加している実態を過去の調査からも明らかにしてきた。性に関する事柄は男と女の生涯のテーマともいえ、少子化問題にも共通した課題を抱えていると思われる。これらの課題に立ち向かうためには、新たな視点での取り組みが必要とされてきており、その課題の実態と問題点をさぐるために「男女の生活と意識に関する調査」を行い続けている。

今回の調査にあたって、以前と同様に個人のプライバシーに十分に留意しつつ、層化二段階無作為抽出法という調査手法を用いた。まず、全国都道府県の市区町村を単位として11地区に分類し、さらに各地区における都市規模によって大都市、人口10万人以上の都市、人口10万人未満の都市、町村という四つに層別化し、その上で、区・都市規模別各層における推計母集団数の大きさにより、平成22年9月1日現在満16～49歳の男女個人3,000の標本数を比例配分し、各調査地点の標本数が13～23になるように調査地点数を決めた。次に、抽出の1段階目として、各層内で国勢調査区より割り当てられた地点数を無作為に抽出し、2段階目として各地点を管轄する自治体の役場で住民基本台帳から対象者個人を抽出した。

平成22年9月11日(木)より9月28日(日)に調査員が訪問し、その結果、長期不在、転居、住居不明等によって調査票を手渡すことができなかった調査不能数が1,460名であり、このうち得られた有効回収数が1,540名(男性671名、女性869名)、回収率51.3%であり、この集計結果を解析に供した。今回の得られたアンケート調査の内容から、本報告書は「わが国における性行動と避妊に関する意識と実態」に関する項目を主に解析し、過去に行われた調査を踏まえながらその実態と変容を明らかにすべく検討を試みた。

I 章. 調査対象の背景

1. 男女間の年齢分布

得られた有効回答者 1,540 名の内訳は男性 671 名、年齢は 16 歳から 49 歳で平均年齢 33.8 ± 9.2 歳、女性 869 名で男性同様に 16 歳から 49 歳で平均年齢 34.5 ± 9.4 歳であり、男性 43.9% に対し女性 56.4% の比であった。男女間において年齢に有意差は認められなかった。

尚、2008 年の第 4 回調査では、男性 647 名 34.5 ± 8.9 歳、女性 821 名 34.8 ± 9.0 歳であり、ほぼ同じ年齢背景であった。

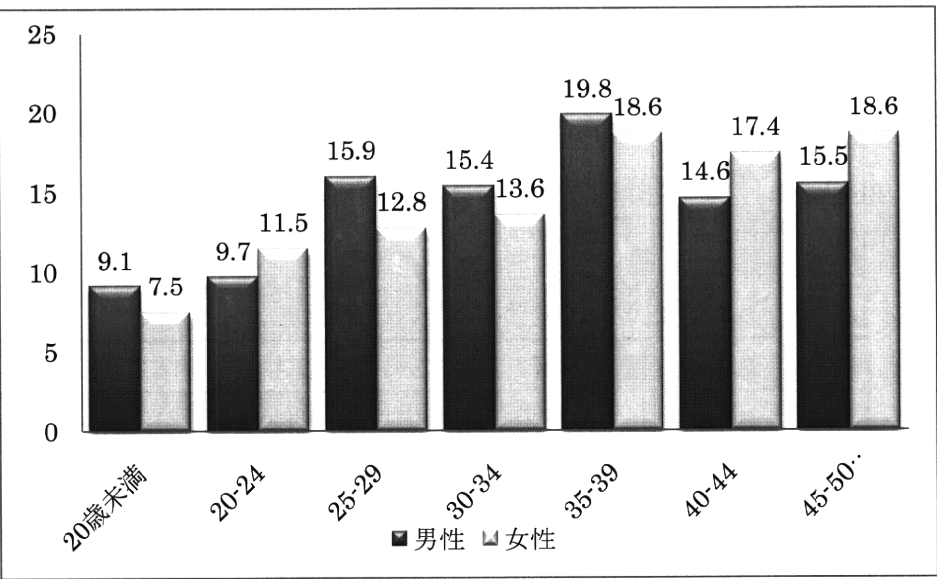
今回対象の 5 歳階級別の年齢分布をみると以下の如くで、各年代間において男女比の違いは認めなかった。

表 1. 調査対象の 5 歳階級別年齢分布：() 内は%表示。

	20 歳未満	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40-44 歳	45 歳以上	総計
男性	61(9.1)	65(9.7)	107(15.9)	103(15.4)	133(19.8)	98(14.6)	104(15.5)	671(100)
女性	65(7.5)	100(11.5)	111(12.8)	118(13.6)	162(18.9)	151(17.4)	162(18.6)	869(100)
総計	126(8.2)	165(10.7)	218(14.2)	221(14.4)	295(19.2)	249(16.2)	266(17.3)	1540(100)

男女の年代別構成を図 1 に示す。20-40 歳未満までは男性が多く、40 歳以上では女性が多くなっているものの男女間における年代間の違いは認められなかった。

この年齢分布を性行動の意識と実態について検討するにあたり、5 歳階級別でみると 7 区分となり、20% 以下で細かくなり過ぎ判断が歪められるリスクを考慮して、25 歳未満を性成



熟期前半群、25-34 歳を性成熟期群、35-44 歳を性成熟期後半群、45 歳以上群（更年期群）と 4 区分にし世代別比較として検討することにした。

表 1-2. 世代別男女の構成

	25 歳未満	25-34 歳	35-44 歳	45 歳以上	総計
男 性	126(18.8)	210(31.3)	231(34.4)	104(15.5)	671(100)
女 性	165(19.0)	229(26.4)	313(36.0)	162(18.6)	869(100)
総 計	291(18.9)	439(28.5)	544(35.3)	266(17.3)	1,540(100)

表 1-3. 第 4 回調査の世代別男女の構成

	25 歳未満	25-34 歳	35-44 歳	45 歳以上	総計
男 性	108(16.7)	194(30.0)	253(39.1)	92(14.2)	647(100)
女 性	147(19.0)	233(30.1)	254(32.9)	141(17.2)	821(100)
総 計	245(16.7)	432(29.4)	558(38.0)	233(15.9)	1,468(100)

また、小区分において母集団が少なくなる場合には、35 歳未満と 35 歳以上で比較することと試みることにした。

2. 兄弟姉妹

対象者の兄弟姉妹の有無については、表 2-1 & 2 に示すごとく「いない」という独りっ子は男性で 37 名（5.5%）、女性 64 名（7.4%）であり、男女間でほぼ同じ値であった。男女共に兄弟姉妹を有しているのが 90%を越えており、その平均人数は男性の 603 名中平均兄弟数 1.7 ± 1.0 （1-10）人、第 4 回調査では 590 名の平均 1.6 ± 0.9 （1-10）人と変化はなく、女性の 750 名中平均 1.6 ± 0.8 （1-6）人、同様に第前回調査の平均 1.6 ± 0.8 （ $n=737$ ）人と違いは認めなかった。

兄弟姉妹の数についてみると男女とも兄弟 1 人が 48.6%と半数を占めており、2 人は 29.0%、3 人以上 10.2%と男女間において殆ど一致していた。今回も「独りっ子」世代は 10%を下回っていた。

表 2-1. 男女別世代別兄弟姉妹の構成（男性）

性別	世代	独りっ子	1 人	2 人	3 人以上	無回答	総計
男性	16-24 歳	16(8.7)	54(48.1)	43(30.8)	11(10.9)	2(1.6)	126(100)
	25-34 歳	6(2.9)	97(46.2)	72(34.3)	23(11.0)	12(5.7)	210(100)
	35-44 歳	15(6.5)	124(53.7)	62(26.8)	19(11.0)	11(4.8)	231(100)
	45 歳以上	5(4.8)	48(46.2)	30(28.8)	15(14.4)	6(5.8)	104(100)
男性計		37(5.5)	323(48.1)	207(30.8)	73(10.9)	31(4.6)	671(100)

表 2-2. 男女別世代別兄弟姉妹の構成（女性）

女性	16-24 歳	14(8.5)	79(47.9)	55(33.3)	14(8.5)	3(1.8)	165(100)
	25-34 歳	15(6.6)	122(53.3)	61(26.6)	24(10.5)	7(3.1)	229(100)
	35-44 歳	28(8.9)	149(47.6)	76(24.3)	33(10.5)	27(8.6)	313(100)
	45 歳以上	7(4.3)	76(46.9)	48(29.3)	13(8.0)	18(11.1)	162(100)
女性計		64(7.4)	426(49.0)	240(27.6)	84(9.7)	55(6.3)	869(100)
総計		101(6.6)	749(48.6)	447(29.0)	157(10.2)	86(5.6)	1540(100)

兄弟姉妹を有す中において異性を含んでいるか否かについてみると、「いる」と答えたものが無回答を除いて男性では 632 名中 380 名（60.1%）、女性 803 名中 507 名（63.1%）と女性がやや多いものの有意差は認めなかった。世代間でみると 25 歳未満の男性において 115 名中 59 名（51.3%）、25-34 歳 203 名中 126 名（62.1%）、35-44 歳 215 名中 137 名（63.7%）、45 歳以上 99 名中 58 名（58.6%）であり、25 歳未満と 35-44 歳間において有意差($p<0.05$)を認めた。女性では 25 歳未満 150 名中 91 名（60.7%）、25-34 歳 214 名中 132 名（61.7%）、35-44 歳 285 名中 184 名（64.6%）、45 歳以上 154 名中 100 名（64.9%）であり、世代間の違いは認められなかった。

表 2-3. 異性の兄弟（姉妹）を有す割合

	男性あり（%）		総計	女性あり（%）		総数
25 歳未満	59	51.3	115	91	60.7	150
25-34 歳	126	62.1	203	132	61.7	214
35-44 歳	137	63.7	215	184	64.6	285
45 歳以上	58	58.6	99	100	64.9	154
総計	380	60.1	632	507	63.1	803

3. 中学生時代の家族形態

思春期の中学時代の家族構成について検討すると「両親と同居」が多く男性 470 名（70.0%）、女性 578 名（66.5%）であり、一般的な家族構成をとっているものが約 7 割を占めていた。次いで両親と祖父母の「複合家族」が男性 130 名（19.4%）、女性 203 名（23.4%）と後者が多いものの有意差は認めなかった。片親との同居が男女ともに 6%前後であった。

表 3-1. 中学生時代の家族形態（男性）

男性	25 歳未満 (%)		25-34 歳 (%)		35-44 歳 (%)		45 歳以上 (%)		総計 (%)	
独り暮らし			1	0.5	2	0.9			3	0.4
両親と同居	91	72.2	141	67.1	162	70.1	76	73.1	470	70.0
片親と同居	6	4.8	19	9.0	10	4.3	3	2.9	38	5.7
複合家族	24	19.0	44	21.0	41	17.7	21	20.2	130	19.4
親以外の複合	4	3.2	1	0.5	10	4.3	1	1.0	16	2.4
その他			3	1.4	2	0.9	2	1.9	7	1.0
わからない	1	0.8			1	0.4			2	0.3
無回答			1	0.5	3	1.3	1	1.0	5	0.7
総計	126	100.0	210	100.0	231	100.0	104	100.0	671	100.0

表 3-2. 中学生時代の家族形態（女性）

女性	25 歳未満 (%)		25-34 歳 (%)		35-44 歳 (%)		45 歳以上 (%)		総計 (%)	
独り暮らし					1	0.4			1	0.1
両親と同居	108	65.5	151	65.9	210	67.1	109	67.3	578	66.5
片親と同居	11	6.7	17	7.4	18	5.8	7	4.3	53	6.1
複合家族	40	24.2	50	21.8	72	23.0	41	25.3	203	23.4
親以外の複合	3	1.8	3	1.3	6	1.9			12	1.4
その他	1	0.6	8	3.5	3	1.0	3	1.9	15	1.7
わからない	1	0.6					1	0.6	2	0.2
無回答	1	0.6			3	1.0	1	0.6	5	0.6
総計	165	100.0	229	100.0	313	100.0	162	100.0	869	100.0

4. 職業

調査対象者の職業は、男性では 67.5%が常勤職についており、非常勤職は僅か 7.3%であった。自営業は 10.9%であり、学生は 10.9%であるも 25 歳未満で 128 名中 72 名（57.1）と殆どで、25 歳以上では僅か 1 名であった。世代区分でみると常勤職は 25-34 歳群で 78.6%、35-44 歳群 78.4%、45 歳以上 78.8%であり、自営業が 45 歳以上群 13.5%と高くなっていた。

第 4 回調査と比較すると「常勤職」が前回 70.2%から 2.7 ポイント減少の 67.5%、「非常勤職」4.6%から 2.7 ポイント上昇し 7.3%となっていた。この違いに有意差を認めることはなかった。

表 4-1. 調査対象の世代別職業分布（男性）

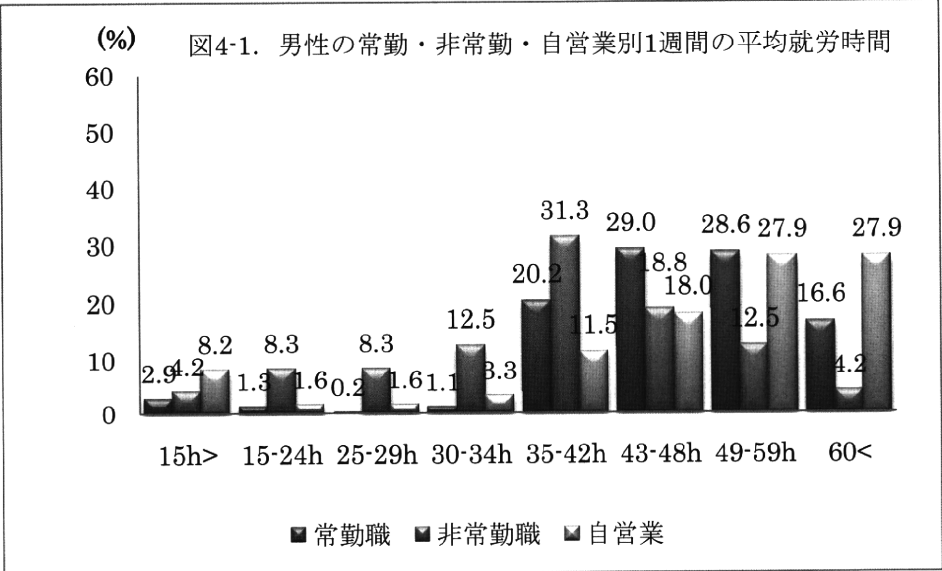
	世代	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計
男性	25 歳未満	25(19.8)	16(12.7)	4(3.2)	72(57.1)		7(5.6)	2(1.6)	126
	25-34 歳	165(78.6)	17(8.1)	16(7.6)	1(0.5)		9(4.3)	2(1.0)	210
	35-44 歳	181(78.4)	13(5.6)	27(11.7)		1(0.4)	8(3.5)	1(0.4)	231
	45 歳以上	82(78.8)	3(2.9)	14(13.5)			4(3.8)	1(1.0)	104
男性計		453(67.5)	49(7.3)	57(10.9)	73(10.9)	1(0.1)	28(4.2)	6(0.9)	671

女性の職業は、「常勤職」が 31.6%、「非常勤職」27.7%、「主婦」19.9%と続いていた。世代別にみると「常勤職」は 25-34 歳が 41.0%と最も多く、35-44 歳 30.0%、45 歳以上 26.5%と低下し、「非常勤職」は 45 歳以上 37.0%、35-44 歳 29.4%、25-34 歳 28.8%となっていた。「主婦」は 35-44 歳 26.8%、45 歳以上 21.6%、25-34 歳 20.5%であった。これらを前回調査と比較してもほぼ同じ値を示していた。

表 4-2. 調査対象の世代別職業分布（女性）

	世代	常勤職	非常勤職	自営業	学生	主婦	無職	無回答	総計
女性	25 歳未満	44(26.7)	23(13.9)	2(1.2)	84(50.9)	7(4.2)	4(2.4)	1(0.6)	165
	25-34 歳	94(41.0)	66(28.8)	5(7.6)	2(0.9)	47(20.5)	9(3.9)	6(2.6)	229
	35-44 歳	94(30.0)	92(29.4)	31(9.9)		84(26.8)	11(3.5)	1(0.3)	313
	45 歳以上	43(26.5)	60(37.0)	19(11.7)		35(21.6)	3(1.9)	2(1.2)	162
女性計		275(31.6)	241(27.7)	57(6.6)	86(9.9)	173(19.9)	27(3.1)	10(1.2)	869
総計		728(47.3)	290(18.8)	118(7.7)	159(10.3)	174(11.3)	55(3.6)	16(1.0)	1,540

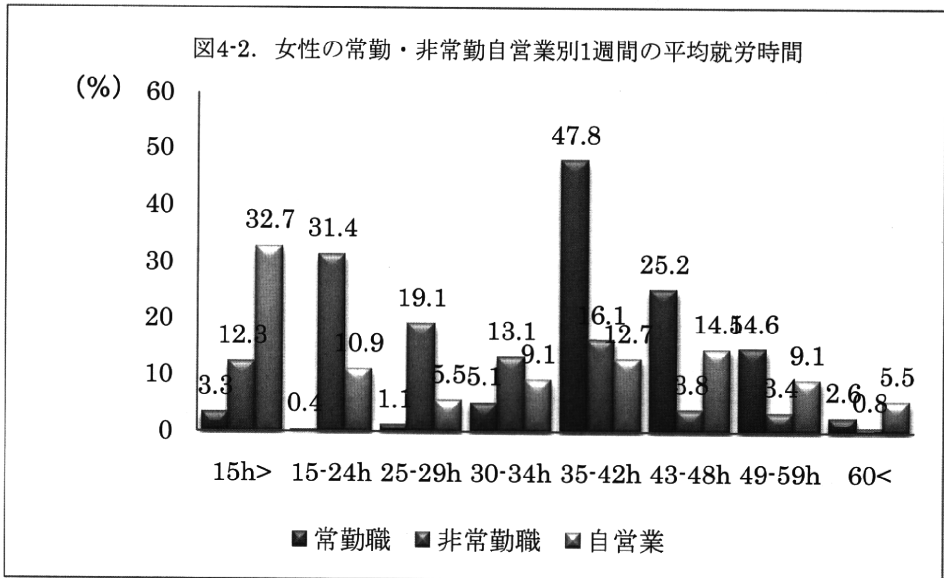
1 週間の平均就労時間について常勤職、非常勤職、自営業の 3 種の職業に対してみると図 4-1 に示す如くなり、1 週間の法定労働時間である 40 時間を境にみると 35-42 時間を境にして異なっていることが明確に窺われた。超過勤務として 43 時間以上の総和でみると常勤職



で 74.3%、「非常勤職」35.4%、「自営業」73.8%と高値を示していた。「常勤職」においては 60 時間以上が前回 22.4% に対し 16.6%と有意($p<0.05$)に低下していた。「自営業」は前回の 24.6%から 27.9%と逆に上昇しており就業の厳しさが窺われた。「非常勤職」

は前回では 35-42 時間労働が 50.0%とピークを作っていたが、今回調査では 31.3%と低下し、長時間就労と短時間就労へと裾野の広がりを示していた。

同じように女性の就労時間についても「常勤職」35-42 時間 47.8%とピークを作り、43-48 時間 25.2%、49-59 時間 14.6%であり、他の時間帯はいずれも 10%未満であった。「非常勤職」は 15-24 時間が 31.4%とピークを作り、25-29 時間 19.1%、30-34 時間 13.1%、35-42 時間 16.1%と小さなピークを作り、以降は 10%を下回っていた。この傾向は前回調査とほぼ同じであった (図 4-2)。



5. 婚姻関係

未婚男性は 317 名で平均年齢 28.1 ± 8.6 歳 (16-49 歳)、未婚女性 313 名、平均年齢 26.9 ± 8.4 歳 (16-49 歳) であり男女間に有意差($p<0.005$)を認めた。この違いは初婚年齢の違いによるものと一致する。有配偶者 (含む再婚) は男性 325 名、女性 485 名で、その平均年齢は男性 38.7 ± 6.4 歳 (24-49 歳)、女性 38.6 ± 7.0 歳 (21-49 歳) と両者間では同等であった。

婚姻関係の構成比についてみると、男性では未婚 47.2%、既婚 44.9%、再婚 3.6%、離婚 3.7%であった。女性は未婚 36.0%、既婚 51.6%、再婚 4.3%、離婚 6.8%、死別 0.6%で無回答が 0.6%であり、女性は男性に比べ未婚者が少なく既婚者が多く、離婚者も多くそれぞれに有意差($p<0.001$, $p<0.05$, $p<0.05$)を認めた。

これを世代別にみると、未婚者においては男性が 25 歳未満 98.4%、25-34 歳 55.7%、45 歳以上 18.3%と多く有意差($p<0.01$, $p<0.01$, $p<0.05$)を認めた。既婚者では 25-34 歳で女性が 48.5%と多く有意差($p<0.05$)を認めた。離婚者で女性が 35-44 歳において 10.9%と多く有意差を認($p<0.01$)めた。